

## 1、清水から斑鳩へ

振り返って見て、そもそもは一昨年(H21)秋の長雨だった。玄関からその奥の納戸までを水浸しにし、ブルーシートを張る対応となったため改造を決意。それが本年の大掛かりな本堂改築から転居をすることまでにつながってしまった。

清水を離れることは大きな抵抗であったが、諸般の事情もあって昨年(H22)10月から実際に転居作業を始め、本年(H23)3月に清水を引き払ってきた。

多くの方に申し訳ない仕儀となり、静かに退出しようとしたのに、別れの会を頂き、お餞別まで頂戴する始末。そんな席で「奈良たより」を執筆するようにとの要請も頂いた。

斑鳩町の住民になっても斑鳩が理解できた訳でもなく、皆様が期待される『奈良・斑鳩の歴史風土報告』にはまだまだ時間も知識も必要であるが、この数日に体験したことを率直に述べてお礼がわりにしようと思う。何事も最初の印象が強烈だからである。

## 2、鳧(ケリ)の歓迎

斑鳩(いかるが)というのは小型のまだら鳩のことで、聖徳太子時代にはこの地方に多く生息していたというが、私は見たことがない。転居先でよく見るのは、スズメやツバメなどより大きく、小型の鳩のような鳥。地上にいるときはくすんだ地味な色だが、人が近付くと飛び上がって鮮やかな白い羽を見せる。

ちょっと威圧的な飛び方で「ケリケリ！お控えなすって！ てめえ生国と発しまするはこの斑鳩で御座んしてケリと申すけちな鳥で御座んすケリケリケリ！！」といった感じである。調べてみるとこの斑鳩町南部に広がる田園地帯に多く生息し、一夫一婦制。他が近付くと雄が果敢に攻撃に出る鳥。鳴き声から鳧(ケリ)というそうだ。歓迎の鳴き声か？

## 3、老人無料券

いくつになっても公的な手続きが苦手だが、今回は転出・転入に大汗をかいた。係の方はにこやかに噛んで含めるように説明してくださるのだが、私の脳みそが反応してくれない。間違えてはいけないとメモしても、書いた所を忘れてしまうから役立たずである。

戸惑いつつの斑鳩町民だが、「老人だから」と頂いたのが、共同浴場入場券と奈良交通バスの無料利用券、高齢者優待券など。早速にバス券を使わせてもらう。

清水時代はほとんどを自家用車で解決させてきたが、ここでは時間がかかってもバスがいいらしい。奈良市まで片道940円ほどを無料で往復させてもらった。有難い。

共同浴場は少し距離があるが、大きな浴槽にたっぷりお湯が溢れていてとても宜しい。優待券は法隆寺が無料で拝観できるとのこと。あの広い境内で行われる数々の伝統法要や年中行事などに毎回高額拝観料を支払うのでは参加できないが、これで気軽に行ける。

## 4、カードが一杯

斑鳩といえば法隆寺だし聖徳太子だから、「もう一度古代史の勉強」と近くの中央公民館で図書利用カードを作ってもらおう。一度に8冊も貸してもらえる。

これまで自己証明は運転免許証で足りていたのだが、斑鳩へ来て「住基カード」なる物も増え、バス券・老人券・優待券・図書カードとカードで一杯。落としたら大変。

## 5、ワサビは奈良か ！？

4月6日の奈良新聞に「奈良の味覚」として『ワサビ』が掲載されていたので大いに驚いた。ワサビといえば静岡ですよ！！

気を静めて新聞を読み直して事情が判明した。その昔、大化改新の頃、庶民から集める税金の基本的な税額として「ワサビ一升」という数え方があったこと。また、薬用としてワサビが用いられた時代があり、近年、奈良南部の吉野地方でワサビ栽培が行われていたが、若者の流失により途絶えかかったものを再興する機運があるということだった。

今は聞かれないが、昔、汽車が静岡に到着すると「静岡名産ワサビ漬」という駅弁売りの渋い声が響いて、静岡に帰って来たことを納得したものである。いや、清水の旨い刺し身はワサビあってこそである。自分で陶器で生ワサビを下ろすのもよい。魚屋さんがたっぷり盛り付けてくれた奴もよい。小さなビニール入りワサビでは肴が生きてこないよ。

## 6、奈良新聞

斑鳩に住まうことになって奈良新聞を購読することにした。一部12ページで朝刊のみ。静岡新聞に比べるとかなり軽量に感じられる。しかし、内容的には満足できるもので、昨今の津波や原発のことも手短に核心を突いて報道されていて不満はない。

それ以上に有難いのは、奈良県内の歴史文化行事のお知らせで、結果を報道するというよりも、開催を予告し、その曰く因縁までを紹介してくれる。4月8日は釈迦誕生の『花祭り』だが、法隆寺を始めとした多くの寺の特色ある行事が紹介されている。

一方、経済ニュースやスポーツ報道は簡素である。どうも一紙で済ませるのではなく、全国紙と地方紙、普通紙と専門紙というふうに購入するものらしい。エスパルスは？

## 7、お茶よお前もか

6日に「ワサビ」で驚かされたばかりなのに、7日の新聞では「お茶は大和」と出た。「何ヲ！お茶は静岡に決まっとる！」「いや、宇治もいいか・・・？鹿兒島もか・・・？？」「それにしても大和とは・・・？？」と記事を読む。

「大和は国のまほろば」だから、全国から貢ぎ物が集まってきて、近年発掘された木簡にもお茶のことが記されているという。古い記録かぁ、古さじゃあ静岡も適わないよナ。鎌倉時代の栄西禅師や聖一国師は静岡では古いが、大和時代と言われるとなぁ。

大和の若者が茶の栽培に打ち込み、昔を偲ばせるお茶が売り出されているとのこと。古代米・赤米・黒米が大和で栽培されていたことは理解出来るにしても、お茶やワサビは静岡だろうに・・・？ エッ！ミカンも大和だって？？ もしかして缶詰の『大和煮』や揚げ物の『龍田揚げ』も大和が発祥というんじゃないでしょネ！！

## 8、龍田川・龍田神社・龍田城

歌に名高い龍田川は両岸が整備されて公園となり、今は桜が五分咲きほど。あまり人出は多くないが、あちこちでパーティーが開かれている。龍田神社は旧奈良街道に面した法隆寺の守護神で、立入禁止の札が立っている社殿の後ろに森があり桜が咲いている。

龍田城はわが家のすぐ西、数百mのところであって、その丘陵を越えると龍田川である。紅葉の名所らしいが、今は桜が満開。私にとっては、城主が『片桐且元』であったということに興味を引かれる。徳川家康との交渉などに好ましい人柄を感じるからである。

## 9、立派な建物

法隆寺や龍田神社の前を東西に貫通しているのが奈良街道で、古い町並みが保存されていて観光客がゆっくりと鑑賞しながら歩いている。龍田の方は宿場町でもあったらしく、大きな木材を豊富に用いた堂々たる建物が連なるが、法隆寺の北や大和川に近い田園地帯へ行くと、お寺かお城かと思間違えるような大邸宅が聳えている。大きな門構えであり、何かの石像物が入り口を守っている。屋根の造りも手が込んでいて、恵比須・大黒の像が立ち、鶴亀・松竹も豊富に散り嵌め、雨樋にも何か透かし模様を施すといった形である。一体、どんな方がお住まいかと気にかかるがひと気は薄い。

## 11、行き止まる道

清水で用いていた乗用車をこの奈良・斑鳩に牽いて来たのだが、清水とは勝手が違って困惑している。運転マナーが違うこと。車用の道路が少なく混雑していること。個人路が多く、道は狭く行き止まりが多いこと。駐車場が少ないことがその主な理由である。

そうした事情を転入者の私が管見して言うことは憚られることだが、あえて僻目で申すなら、近代の合理性よりも歴史を守ろうとする意識の発露にはほかならないのではないかと思われる。

広い斑鳩の田野に建てられた立派な家。道はそのお宅へ至る道であり行き止まりとなる。やがてその道脇に分譲住宅が造られて人が住まうようになるが、貫通する必要はなかったのであろう。平坦で車に都合のよい道路を建設するよりは、昔からの言い伝えを守り、多少の不都合には目を向けないことが重要であるらしい。他の者の通過はお断りである。

## 12、人情風土

斑鳩は聖徳太子縁の地で、仏教信仰の厚いところである。私がお世話になることになった駐車場の管理人さんは「この土地の者の心は丸いです」といわれた。しかし、実際にはまだ親しく話をする人ができない。朝夕、なるべくご近所の方とお話ししたいと思っても人影がない。通行人にも挨拶しようと思うのだが、道の反対側へそれて行ってしまう。綺麗な家が立ち並んでいる地区だが人影が少なく、コミュニティ紙の記事の一節に「大阪人のベッドタウン」の文字もあるから地域的なコミュニケーションはまだこれからなのだろうか？ すっと視線を外される冷たさはなかなか手ごわい。

図書利用カードを申請した際、「どうして日本一住みよい静岡からこんな所へ来たんですか」と問われたが、私にはまだ解らぬ何かがあるらしい。

## 13、右折優先？

交通ルールは日本全国共通のものであろうが、交通マナーとなると地方によってニュアンスが異なるようである。私を感じるこの地域のマナーを一言で言うと「強引・中国風」となる。待っていたんじゃ間尺に合わん。凶々しくても強引にせざるを得ない。空いた所は有効に使い。先手必勝。もたもたするな。といった感じである。転居数日後に私は大型トラックに追突されてしまったのだが、運ちゃんの言い訳は「青信号になりそうだから出てくれると思った」である。同じような場面で、対向の右折車がしきりに手を振ったが、「早く通れ」と催促したのである。もっと凄いのは、対向の右折車が左折しようとする私の前を横切ったことである。こうしたマナーに慣れるには時間がかかりそうである。

#### 14、 選挙権を行使出来ない

三月中旬に転出・転入した関係で、これまで一度も棄権したことがなかった選挙権を行使することが出来ない。配布された選挙広報も無駄にみえるが、町や県の課題はなにか？と眼を通す。「自主独立か連合か」というあたりが争点らしい。

大災害のため派手な選挙活動は自粛するらしいが、それにしても活力が感じられない。わが家から十数m南にちょっとした空間があり、候補者らしき人が何やら申し立てている。二階の窓を開けて演説を聞いたが、聴衆がほとんど居ない中で、穏やかな口調で実績らしいものを述べていて、今後、どうしようと言うのか判らない。奈良気質なのだろうか。静岡市長の選挙戦はどうなっているのだろうか。ちょっと気になる。

#### 15、 音楽ができない

今回の転居で最も困難と思われたのが私の音楽関係の持ち物だった。明治以降の音楽教科書、欧米などで買い求めた楽譜や資料など長年に亘って収集したものは手放せない。

それ以外はなるべく知人や公立施設に贈呈した。チェンバロやシンセサイザーも手放した。それでも多くの物が残り、運送屋さんは毛布で丁寧に梱包して運んでくれた。ダンボールに詰められた物はうずたかく積み上げられて、まだ手が付けられないものが多いが、ピアノ、キーボード、CDプレイヤーなどはすぐに取り出されたので、点検も兼ねて一曲弾いたところ、たちまち息子に叱られた。「ここでは外に漏れるような音は禁止！」とのこと。当分は『歌を忘れたカナリア』『口を塞がれたウグイス』である。

#### 16、 茶釜(ちゃせん)の里を訪問

荷物の整理や片付けばかりでは鬱陶しいので、家内と二人で茶釜の里を訪問することにした。地図で見当をつけると、斑鳩の北、約20数kmの生駒にあるらしい。

私のような方向音痴にとっては念には念を入れて運転せざるを得ないのだが、どうやら間違えずに到着した。

ここは元鷹山城のあった所。城主の弟の高山宗砌(そうせつ)が、わび茶の創設者である村田珠光に依頼されて、粉茶をかき回して飲むための茶釜(茶筌)を作ったのが始まりとされる。以後、時代が変わっても技法は受け継がれて、全国の茶釜製造の八割はこの地が担っているという。私らが訪問したのは三日の日曜日。さぞや混雑しているだろうと思いきやまるで人影なし。お陰で、日曜しか行われていない茶釜の製造実演もたっぷり見せて頂き、製造者と様々な話し合いもすることが出来た。

#### 17、 四月十日は鳥坂の大日さんだが・・・

恒例の全国リコーダー・コンテストは大災害に遠慮して急遽中止となったという。そうしたニュースと共に旧友からの電話が次々と入る。東京・大阪など話題は広範囲だが、皆様が私のことを心配してくださっていて申し訳ない気持ちで一杯である。

ところで、明日は『鳥坂の大日さん』だ。いつもこの日に合わせて各種の支度がなされるが、この十数年の私は「邦楽演奏会」だった。箏曲・三味線・琵琶楽・津軽三味線などを提供して、それなりの常連客もあった。その内のお一人が「転居するとは何事」と尋ねてきて下さったが、話の最後に「新天地で辻説法のつもりで頑張ってください」との激励を頂いた。今年の鳥坂の大日さんはどうなっているのだろうか。